

アンパンマンの詩

アンパンマン



おなかが すいたり、こまっている ひとが いたら、
どこでも とんでいく みんなの ヒーロー。
ジャムおじさんが ころもを こめて つくった パンに、
いのちのほしが おちてきて うまれた。
ばいぎんまんが わるさを すると アンパンチで こらしめる。

五月晴れの連休、孫が久方ぶりに顔を出してくれた。

“アンパンマンに会いに行きたい”と言う。
アンパンマンは環八添いの住宅展示場にいた。
身の丈8mを超すバルーンのアンパンマン
凡そ2時間アンパンマンの歌を聞きながら
孫と戯れた、楽しかった。

そしてその歌が耳から離れなくなり、その日は
1日中耳の奥で流れていた。その歌詞の一部は
こんな感じでした。

“何の為に生まれて 何をして生きるのか たとえ胸の傷がいたんでも
“忘れないで夢を こぼさないで涙 だから君はとぶんだ どこまでも
“時ははやくすぎる 光る星は消える だから君はいくんだ ほほえんで
“そうだ 恐れないでみんなの為に 愛と勇気だけが友達さ

どうも子供向けの歌にしてはと 腑に落ちないのでネットで調べて見た。

やはりそうか、そう感じている人はこんなにも多かった。

作詞家やなせたかし の詩で、昭和20年に特攻を志願して散った アンパンが大好きだった
弟を思いだして書いた詩であるそうです。国を思う愛 人を想う高い志何となくうなずけました。
ますますアンパンマンが 孫よりも、好きになりました。

もはや晩年と言われる歳に入り、自分の生き様を感じる(第3者的に見る)ようになりました。
そして自分の晩年の処し方として思います。権力も金銭も地位も名誉も何もいらない。
自分の存在が、少しでも世の中の人のためになるのなら、滅自分で生を全うしてみようと思う。

最近の新聞の中にこんな漢詩を見つけました。題名は偶成(偶然に成る)

幾歴辛酸志始堅
丈夫玉碎愧瓦全
我家賞事人知否
不為児孫買美田

作者は西郷隆盛 不利を承知で西南戦争を戦った西郷は、何を思って最後を迎えたのか。
(漢詩の意味は各自で調べて下さい。)

こんな引用でしか自分を表現できないのも、寂しい事ではありますが・・・

さて、本題に入ります。

ここの所毎日、仕事を断る日が続いています。仕事を断るのに忙しいのです。
HPからの問い合わせで、多くの案件を依頼されますが、多すぎて捌けません。
誠実にやればやるほど、初めに断らざるを得ません。

そんな“信じられない”と皆思うでしょうが、本当です。

インターネットがここまで進めば、蒲田の零細企業が一代ブームを起こす事が出来るのです。
HPで特技を訴え、ブログで最新の仕事をアピールし、ツイッターでつぶやいちゃえば
何十万人に繋がって行きます。少しずつ、少しずつ流れを変えていかれます。
何も変わらないかもしれませんが、でも“マシナリーの奇跡”は現実には起こっているのです。
それもまた、事実なんです。

製造業なんて皆、中国に持って行かれて もう駄目だ なんて諦める前に

みんな メーカーに成ってやろうよ

まだまだ捨てたもんじゃあないですよ。やり方一つで奇跡は起こせます。

がんばろう 日本 がんばろう 大田 がんばろう J-92

“いつも にこにこ そわか” 良寛

東洋マシナリー株式会社 鈴木 志郎

TEL03-5480-2660 fax03-5480-2661

mail ; ss@interlink.or.jp